

もし、工務店社長の娘が お客様に選ばれる『受注戦略』を学んだら



**もし、工務店社長の娘が
お客様に選ばれる『受注戦略』を学んだら**

もくじ

プロローグ 1

第一章 ちひろの決断 14

第二章 ちひろ、工務店を知る 20

主な登場人物

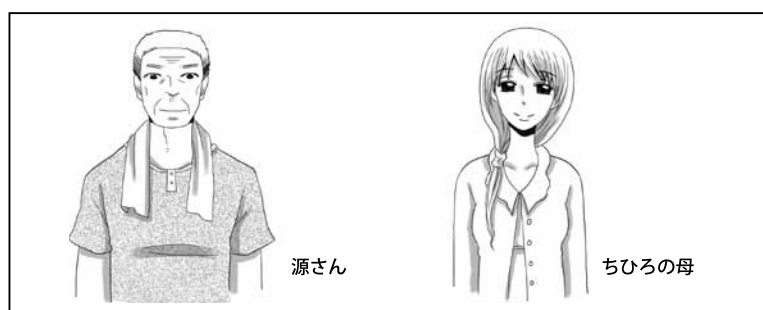


ちひろの父
(工務店社長)



ちひろ

第三章	ちひろ、ナツクと出会う	……	26
第四章	ちひろ、一步を踏み出す	……	42
第五章	ちひろ、ナツクの成長戦略を学ぶ	……	50
第六章	ちひろ、ナツクを活用する	……	68
エピローグ	……	……	85



プロローグ

「ねえパパ、パパのおしごとってなあに？」

「ん？ パパの仕事かい？ パパはね、みんなの夢を叶える仕事をしているんだよ。」

ちひろの父が経営する『有限会社にわたま工務店』は、威勢のいい職人の声と、活気にあふれていた。

母親は、ちひろが2歳のときに他界しているため、ちひろは事務所にいることが多く、職人たちはちひろを我が子のように可愛がってくれていた。ちひろもお菓子をくれたり、一緒に遊んでくれる職人たちを慕っていた。そしてそれ以上に、職人たちに慕われている父の事を誇りに思っていた。実際、職人たちは社長である父親を尊敬していたし、何よりお客さんからの信頼も厚かった。大勢の仲間やお客さんに囲まれて、好きな仕事を精一杯頑張っている父を見てきたからか、ちひろは母親のいない寂しさを感じることなく成長することができた。

「ゆめをかなえるおしごと？」

「ほら、あそこに赤い屋根の家が見えるだろ。」

父が指をさして言った。

「うん。おっきなワンちゃんがいる家でしょう。」

「あの家はね、3年前にパパが建てたんだよ。そして、あの家族は、いつかワンちゃんといっしょに家族全員で幸せに暮らせる家に住みたいっていう夢を持っていたんだよ。」

「じゃあ、ゆめがかなったんだね？」

「そうだね。あの家族のように、みんなの“夢のマイホーム”を建てるのがパパの仕事なんだよ。」

「へえ、パパすごい。ねえ、ちひろも大きくなったらパパのおしごとのおてつだいでもいい？」



「ちひろがかい？ もちろんいいよ。じゃあ約束だ。大きくなったらパパのお仕事を手伝ってくれるね？」

「うん。やくそくだよ！」

「おい、ちひろ。買い物に行ってきたくないか？ それと机の上の書類を片付けておいてくれ。」

「えー、今日は友だちと約束があるのに。」

「頼むよ。現場でトラブルがあつてな…。その書類も今日中になんとかしたいんだよ。お小遣いは弾むからさ。頼むよ。」

「ちひろちゃん、俺からも頼むよ。今回はどうしても社長が行かないとまずいんだよ。お客様あつての仕事だからね。」

「もう…。源さんをお願いしたら断れないわね。お小遣い、期待してるわよ！」
「悪いな、ちひろ。」